

編集発行

山形県環境科学研究センター

〒995-0024 村山市楯岡笹田3丁目2番1号

TEL 0237-52-3124

FAX 0237-52-3135

ホームページはこちら



ほっと
NEWS



水生生物による水質調査 参加者募集！



川にすむ生きものを調査することで、その川のきれいさがわかる「水生生物による水質調査」を学校や子供会、地域団体から個人での参加まで、多くの皆さんから協力していただき、毎年度実施しています。



水生生物調査の様子

今年度もたくさん申込がきていますが、まだまだ募集しています。

近くの川に行って、冷たい川の水に触れて、隠れた生きものを探して、楽しく水環境や生きものについて学んでみませんか？

身近な自然に接することで、皆さんの環境問題・環境保全への関心がより深くなることを期待しています。



サワガニ

調査に興味はあるけれど、調査のやり方がわからない…生きものの判別ができない…などの不安のある方は、「職員出前講座」をご活用ください。調査方法の説明、生きものの採取・判別など、幅広くサポートします。もちろん調査経験がある方の申込も大歓迎ですので、どうぞお気軽にご相談ください。



カワゲラ



調査期間：令和6年10月14日(月)まで
申込先：環境科学研究センター 環境企画部

※詳しくは下記の二次元コードにアクセスするか「山形県 水生生物調査」で検索してください。

調査方法の
解説動画
(YouTube)
はこちら↓



水生生物調査・
出前講座の申込
(県ホームページ)
はこちら↓



事業
報告

親子で楽しむ環境科学体験デーを開催しました



6月22日と6月29日に「親子で楽しむ環境科学体験デー」を開催しました。この「親子で楽しむ環境科学体験デー」は、環境月間である6月の行事として、平成16年から開催している恒例のイベントで、今回でちょうど20回目の開催となりました。

○第1弾：自然観察会

6月22日の第1弾は、やまがた百名山の「楯山」を舞台に、自然観察会を開催しました。この観察会は山形県気候変動適応センターの事業を兼ねており、地球温暖化についても学びました。そのほかに、生物季節観測の紹介や観測に使用するアプリも紹介しました。

楯山探検では、桑の実が大人気でした。男の子たちが木にしがみついて桑の実を取ったり、とても楽しそうでした。天気にも恵まれ、ゆったりと身近な里山の自然を満喫し、とても良い自然観察会になりました。



自然観察会の様子



○第2弾：科学実験体験・センターの一般公開

6月29日の第2弾は、毎年恒例の科学実験コースと、新型コロナウイルス感染症による影響で、令和元年度以降実施していなかった、事前申し込み不要の一般公開を行いました。

事前申し込み制の体験コースでは、86組（245名）の応募者の中から抽選で47組（134名）の親子に参加していただきました。

・科学実験体験コース

科学実験体験では、インクをろ紙で色分けする「色のふしぎ」、海岸の砂に混じっているプラスチックを探す「プラさがし」、重曹とクエン酸で「バスボムをつくろう」、身近なものの「酸性・アルカリ性」調べ、糊とホウ砂で「スライムをつくろう」、「リサイクル工作」の中から3つを組み合わせて体験しました。

「色のふしぎ」では、少しずつ色が分かれていく様子を夢中になって観察し、黒いインクがカラフルなグラデーションになったときには歓声があがっていました。その後は色分けを使って花火やクジャクの絵を描いて、皆さん（職員も含む）とても楽しそうでした。



プラさがし



スライム



酸性・アルカリ性



色のふしぎ

・一般公開

一般公開は「エアーカーリング」「空気砲」「すずしい色は何色?」、やまかぼ・サポーター（学生環境ボランティア）による「手作りうちわを作ろう!」などのコーナーが設けられました。コースの待ち時間の方、当日飛び入りの方、残念ながら科学実験体験の抽選に落ちてしまった方など、多くの方に参加していただき、楽しんでいただくことができました。

○最後に

様々な実験・体験を通して、親子で楽しいひと時を過ごしていただきました。今回の参加を機に「科学」や「環境」に関心を持っていただければと思います。

ほっと NEWS

空気のきれいな山形県を調査しています

微小粒子状物質(以下、PM2.5)をご存じでしょうか？PM2.5とは、大気中に浮遊している2.5 μ m以下の粒子で、呼吸器など人体への悪影響が心配されています。



PM2.5のサイズ比較(模式図)
<https://www.epa.gov/pm-pollution/particulate-matter-pm-basics>



PM2.5成分分析(炭素成分)

全国約800か所の常時監視地点におけるPM2.5濃度の年平均値を都道府県単位で集計したところ、山形県は全国トップレベルにPM2.5濃度が低い「空気のきれいな」県である結果が得られました。

PM2.5については、前述の常時監視地点での濃度測定に加えて、PM2.5中に含まれるイオン成分や炭素成分等を分析する“PM2.5成分分析”も季節毎に全国で実施しています。当センターでもこれまで約10年の間、PM2.5成分分析の試料採取及び分析を継続してきました。これら常時監視地点のデータやPM2.5成分分析データを解析することで、山形県内のPM2.5発生源の変化等を明らかにして、「空気のきれいな」山形県を維持していくための指針を得るべく、研究を進めています。

ほっと NEWS

自然環境モニタリング調査 実施中！

山形県の豊かな自然は多くの生き物を育てています。一方で、絶滅のおそれのある野生動植物について、「レッドデータブックやまがた植物編(2013改訂)動物編(2018改訂)」をみると、植物では、県内に記録のある維管束植物2190種のうち536種が絶滅危惧種に選定され、実に4分の1が絶滅の危機にさらされています。動物でも416種(哺乳類20種、鳥類113種、爬虫類5種、両生類9種、淡水魚類33種、陸産貝類10種、淡水産貝類15種、甲殻類10種、昆虫類201種)が絶滅危惧種に選定されています。

野生動植物が生息、生育する生態系を保全するためには、より正確に現状を把握する必要があります。当所では、長期的な計画に基づいて、大山岳、中小山岳、河川・溪流、湿原・湿地、草地・風穴、湖沼・ため池の生態系区分ごとに、総合的な「自然生態系保全モニタリング調査」を実施しています。やまがた緑環境税を活用し、専門家の協力を得て調査しています。

本調査の生態系区分の中に、風穴があります。今年度の調査地では、山の地滑りなどで堆積した岩の隙間から、冷風が吹き出していました。冷風の温度は、5月下旬



冷風温度は3.2℃

の調査で約3℃、7月下旬で約5℃でした。この冷気の影響で、風穴地にはより標高の高い場所や高山帯に生育する植物、北方系の植物が見られます。中には、県内でも限られた風穴地にのみ生育する植物も見られました。今年度の風穴の調査地で確認された植物を紹介します。



ザリコミ
絶滅危惧IA類



エソスグリ
絶滅危惧IB類



コマガタケスグリ
絶滅危惧IB類

「レッドデータブックやまがた植物編」によると、絶滅危惧種の個体数の主な減少要因として、自然遷移※、園芸採取、産地極限(もともと生息範囲が狭い)、森林伐採、土地造成が挙げられています。開発などの人の活動の直接的な影響が及ばない環境でも、自然遷移に加えて、地球温暖化による気候変動の影響が考えられます。気候変動は、風穴地という特異的な環境に生育する植物にどのような変化をもたらすのでしょうか。まずは、正確な現状把握を目指して、今年度後半のモニタリング調査を行います。

※自然遷移：草原から森林など、植生が移り変わる事。

各部
紹介

水環境部



水環境部では、河川などの公共用水域や地下水の水質調査、工場・事業場からの排水や最終処分場からの放流水等の検査を行っています。今回は、公共用水域の水質調査について紹介します。

山形県では、水質汚濁防止法に基づき、昭和47年から河川や湖沼、海域の水質測定を国土交通省や山形市と分担して行っており、当センターでは県担当地点の重金属類や農薬類などの人の健康に影響があるといわれる項目を担当しているほか、

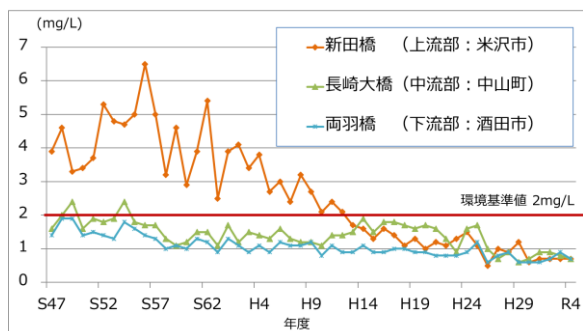


初夏の最上川

県全体の測定結果を取りまとめています。

県内の水質は概ね良好ですが、環境基準値を超えた場合はその状況や原因に関する調査を行い、改善につなげていきます。

グラフは、最上川におけるBOD（有機物の汚れの目安）の濃度推移をグラフに示したものです。ご覧のとおり、下水道をはじめとする生活排水の処理や事業場排水などの対策が進められた結果、BODの値は低くなってきています。



最上川におけるBODの濃度推移

職員
紹介

研究員 笠島 政信



4月から水環境部に配属されました笠島政信と申します。主に地下水関係を担当しています。昨年度までは、庄内総合支庁環境課で3年間環境保全担当（大気関係）をしていました。水関係の業務は初めてであり、また大学で使用したことのない機器も多く分からないことばかりですが、素晴らしい先輩方にご指導いただきながら少しでも早く知識を身につけて、山形県の環境保全に貢献できるよう日々精進してまいります。

趣味は登山と公言しておりますが、大学卒業後山形に戻ってきて以来、県内の山は片手で数えられるぐらいしか登っていません。クマが怖い一人では登山しないことをポリシーとしているので、これからも「趣味は登山です」と言えるように趣味が合う方はお手伝いいただけると幸いです。



編集後記

紙面を刷新して2回目、今度のタイトルは、夏に涼しげな最上川舟下りです。先日の豪雨により舟が流される等大変な被害を受けたようですが、現在は残った舟で営業を再開しているとのこと。多くの人に山形県の魅力を知ってもらえるように、災害に負けず頑張ってください。（M.S.）

環境教室受付中！

- ・リサイクル工作
- ・水の汚れしらべ など



山形県 環境教室

検索

